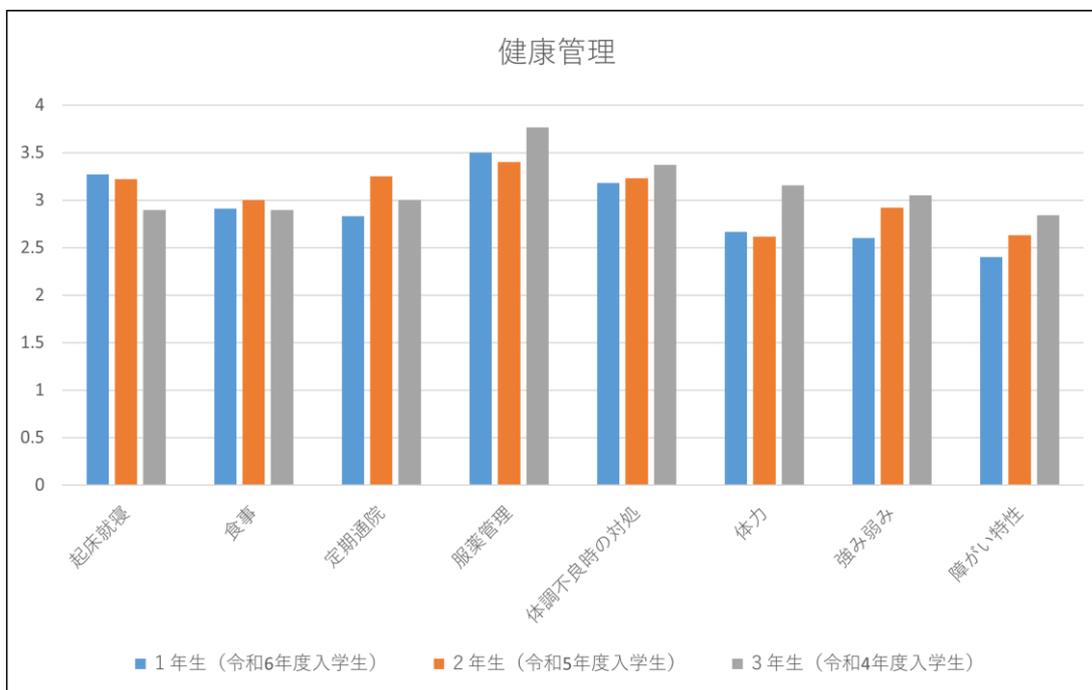


(1) 令和6年度の1年生から3年生までの得点の比較

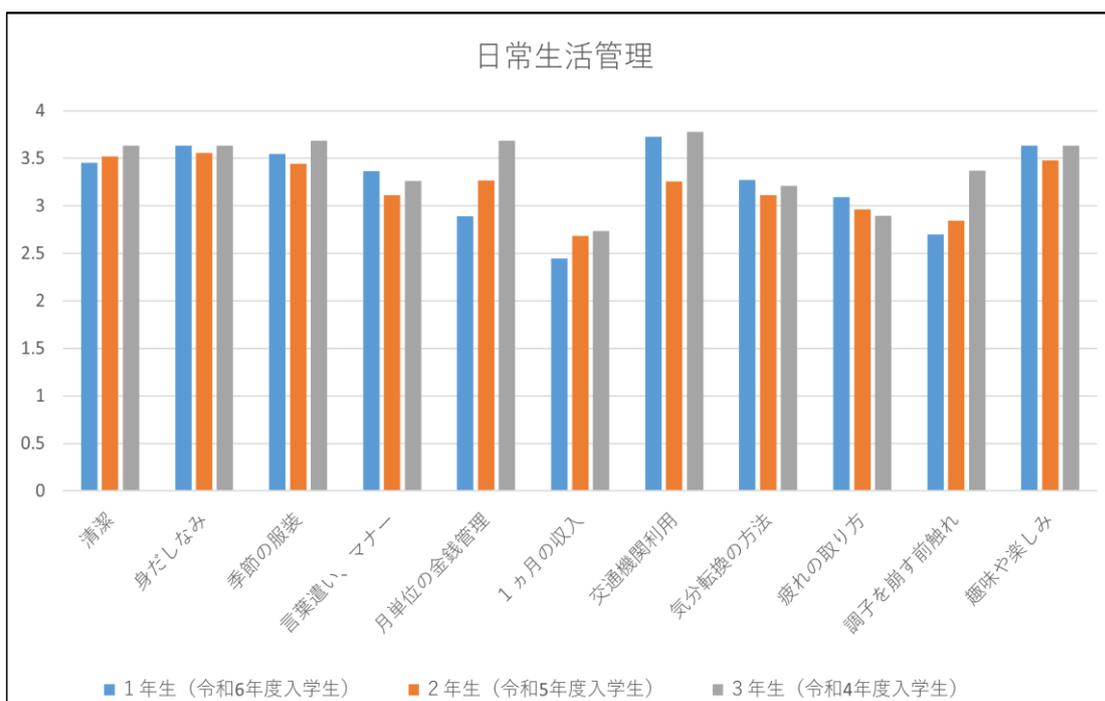
【健康管理】



3学年通じて平均点が3点以上の項目：「服薬管理」、「体調不良時の対処」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目：「障がい特性」

【日常生活管理】

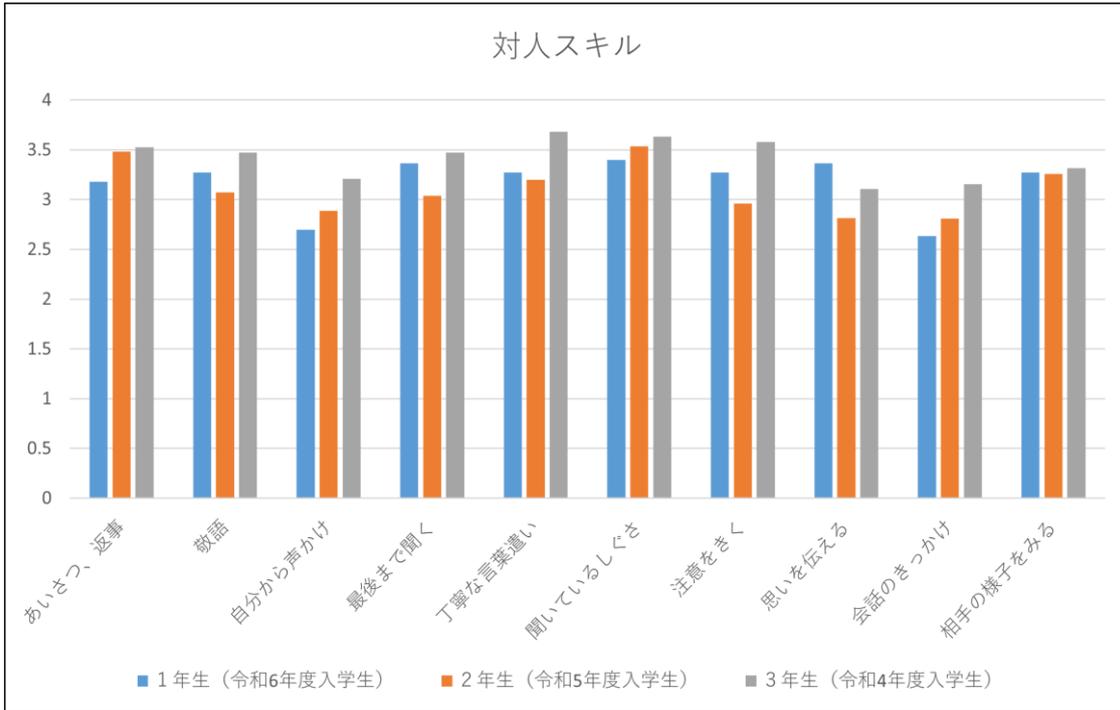


3学年通じて平均点が3点以上の項目

「清潔」、「身だしなみ」、「季節の服装」、「言葉遣い、マナー」、「交通機関の利用」、「気分転換の方法」、「趣味や楽しみ」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目：「1か月の収入」

【対人スキル】

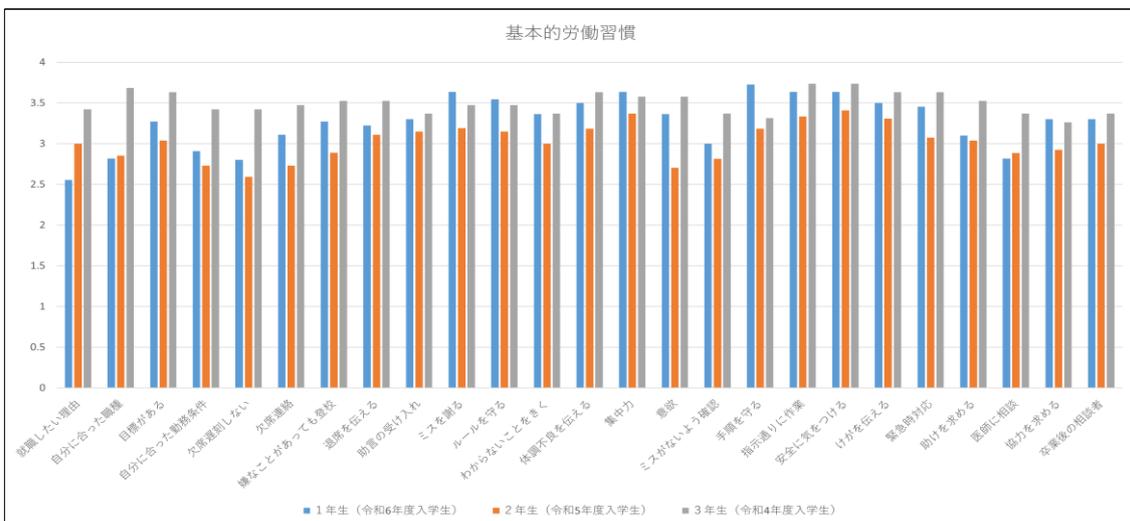


3学年通じて平均点が3点以上の項目

「あいさつ、返事」、「敬語」、「最後まで聞く」、「丁寧な言葉遣い」、「聞いているしぐさ」、「相手の様子を見る」

3学年通じて平均点が1～2点台の項目：なし

【基本的労働習慣】

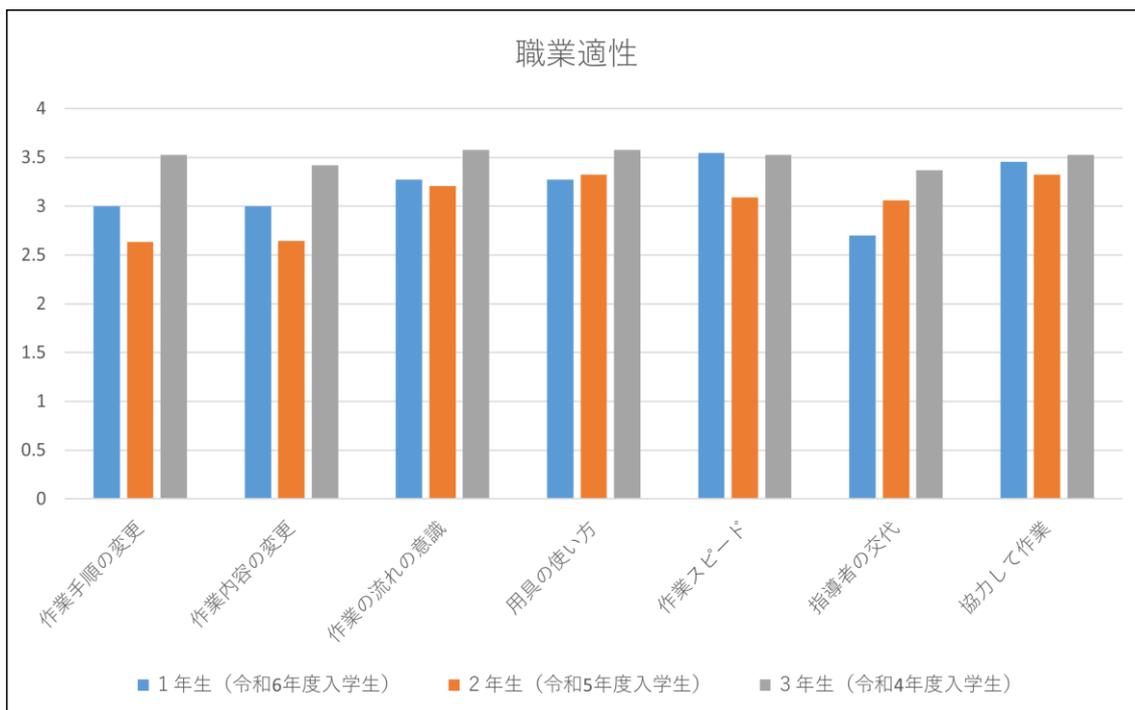


3 学年通じて平均点が 3 点以上の項目

「目標がある」、「退席を伝える」、「助言の受け入れ」、「ミスを謝る」、「ルールを守る」、「わからないことをきく」、「体調不良を伝える」、「集中力」、「手順を守る」、「指示通りに作業」、「安全に気をつける」、「けがを伝える」、「緊急時対応」、「助けを求める」

3 学年通じて平均点が 1～2 点台の項目：なし

【職業適性】



3 学年通じて平均点が 3 点以上の項目

「作業の流れの意識」「用具の使い方」、「作業スピード」、「協力して作業」

3 学年通じて平均点が 1～2 点台の項目：なし

【考察】

全般的に学年が進むにしたがって、得点が高くなる傾向が見られる。3 年間の学校教育で少しずつ力をつけていることがいえる。いくつかの項目で 1 年生 (令和 6 年度入学生)、2 年生 (令和 5 年度入学生) が、3 年生 (令和 4 年度入学生) よりも高い得点になったり 2 年生より 1 年生が高い得点になったりしている項目がある。得点結果の傾向は、これまでの過去の検証のまとめでも見られるが、学年集団が、自分を過大評価したり、客観的な自己評価が難しかったりする生徒が多くいるのではないかという考察をしている。また、学習機会や実習経験での学びがどのように数値に反映するかについても見守っていききたい。

5 つの領域を見ると、全般的に 3 年生の得点の高まりが見られることがわかる。これ

は、専門教科や現場実習等、職業教育に関わる教育活動を積み上げた成果ではないかと考える。反対に、3学年が共通して平均が1～2点台となった項目は、【健康管理】「障がい特性」、【日常生活管理】「1か月の収入」である。「1か月の収入」については、金銭のことは意識的に触れないと話題にしづらく、学習の機会が少ないことが要因ではないかと考えられるが、学年進行により上がってきており、アルバイトの経験や求人票の見方に関心を持つ生徒が多くなってきていることが影響していると考ええる。「障がい特性」といった項目は、昨年度に引き続き得点が低くなっているが、低いながらも学年進行により上がってきており、3年間の成果として捉えられる面もある。今後も就労と障がい特性の理解との関連を具体的に検討し、本校の求める障がい理解について明確にして意識して指導をしていく必要がある。